

迎賓館便り第4号～迎賓館の天井絵画修復～



試験改修がおこなわれた45号室。左が修復前、右が修復後。



迎賓館の天井絵画



朝日の間



羽衣の間

迎賓館の天井絵画は、明治42年の創建当初に描かれた、日本でも他に類を見ない大規模なものです。なかでも最も大きな、羽衣の間の絵画面積は、290平方メートルもあります。

これらの絵画の作者については、創建時の記録に朝日の間の天井絵画は、「仏国名画師『ペルツ』」が監督したと書かれています。

「ペルツ」という画家がどのような人物であったのかは不明ですが、最近の調査で、天井絵画をフランスの会社から輸入した書類が発見されたことから、フランスでキャンバスに描かれた油絵を船で日本まで運び、天井に貼ったことがわかりました。



修復に至る経緯

昭和49年の迎賓館開館を前にした「昭和の大改修」では、東京芸術大学の寺田春式教授の指導により天井絵画が修復されましたが、その後、40年近く経つため、どの絵にも筋状の汚れなどが目立ってきていました。

迎賓館では、平成21年度から「迎賓館の改修に関する懇談会」を設置し、そのなかの「天井絵画専門部会」において、修復のための議論を進め、平成23年度から24年度におこなわれた45号室の試験改修の後、現在、館内の天井絵画の修復を順に進めています。修復の各段階で専門部会の確認、指導のもと、文化財としての価値を損なわない修復をおこなっています。



天井絵画専門部会委員の構成

- [座長] 木島隆康（東京芸術大学教授）
- [建築史] 藤岡洋保（東京工業大学教授）
- [日本近代絵画史] 山梨恵美子（東京文化財研究所副部長）
- [絵画修復] 歌田眞介（東京芸術大学名誉教授）
- [絵画修復] 森田恒之（国立民族学博物館名誉教授）
- [工事保全] 国土交通省官庁営繕部整備課特別整備室長
- [運営] 内閣府迎賓館庶務課長

専門部会による現地確認の様子。

修復の工程 その2



細い筆で膠水を含ませる。



ポリエステル紙をあてて、低温のアイロンで押えて接着する。

【浮き上がり接着作業】

天井絵画には前回の修復以降の埃や汚れが付いていますが、その他に絵具にヒビが入って細かく浮き上がっている部分があります。そのまま洗浄をしまうと、絵具が剥がれ落ちてしまうので、まず、浮き上がっている部分を画面に貼り付けなければいけません。方法は、浮き上がりに膠(にかわ)水を含ませ、薄いポリエステル紙を貼り、上から低温のアイロンで押えることで接着するという丁寧な作業です。ポリエステル紙は、次の洗浄の過程で取り除きます。



足場の上で、一斉に接着をおこなう修復家の皆さん。



修復の工程 その3



丁寧に刷毛で埃をはらう。

【洗淨作業】

浮き上がった絵具が画面に接着されたら、ようやく画面の汚れを取り除く作業です。ここでも、綿棒などに精製水や洗淨液を含ませ、優しく丁寧にふき取っていくのです。この作業で、表面の埃や汚れ、さらには前回の修復で塗り重ねられた絵具をふき取ることによって、描かれた当時の絵具が現れます。



有機溶剤を使った洗淨では専用のマスクを使用する。

変色した前回の修復のワニスを取り除くと元の明るい色が現れる。



修復の工程 その4

【充填整形・補彩作業】

洗浄によって前回の修復の絵具が取り除かれた部分の古い欠損箇所や、新たな損傷によって当初の絵具が欠損している部分には、画面に凹みができています。そこを、次の修復で取り去ることができる材料で塞ぐのが充填整形です。

その後、水彩絵具や除去可能なアクリル絵具で最小限度の補彩をおこないます。油絵具を使わないのは、次の修復のときに取り去ることができることが重要だからだということです。実際に見て驚きましたが、パレットの上で周辺の色と同じ色に慎重に調合し、極細の筆で細かく塗り重ねていくという気の遠くなるような作業です。この後、保護用のニス塗り重ねて完成になります。最後に、修理前と同じように記録をおこないます。



補彩用のパレット

ひとつひとつの作業が、非常に細かく、神経を使う作業であるうえに、天井絵画の修復は、上を向いておこなうことになり、首や肩、腰に負担がかかる大変な作業になります。

修復家の皆さんは、首、腰を支えられるような道具の工夫をしていますが、最後は修復への情熱が皆さんを支えているようです。

東の間の壁画の修復

修復事業の一環として、東の間の壁画の修復もおこなわれました。平成26年の一般公開では、迎賓館開館40周年記念として東の間を公開し、修復されたばかりの壁画をご覧いただきました。

東の間はもともとは喫煙室として設計された部屋で、創建当初は壁画はありませんでした。これらの壁画は、大正3年に日本人画家の和田英作により描かれたもので、エジプトの風景を題材としています。



修復後。

東の間の修復の様子。額縁部分も修復されました。



